

地域計画

策定年月日	令和7年3月17日
更新年月日	()
目標年度	令和12年度
市町村名 (市町村コード)	藤岡市 (209)
地域名 (地域内農業集落名)	美九里南部地域 (保美、三本木、高山)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	46.5 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	46.5 ha
② 田の面積	18.9 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	27.6 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	6.1 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	8.46 ha
(参考)区域内における70才以上の農業者の農地面積の合計	1 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	1 ha
(備考)区域内の遊休農地:6.9ha	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における70才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

保美地区では、土地改良事業が実施されており、集積・集約化が進んでいくと思われるが、そもそも担い手が少ない地域である。野生鳥獣の被害も多い。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

担い手が少ないことから新規就農者、企業の経営体等の多様な担い手を受け入れるための体制を整える。特に保美地区においては、土地改良事業に伴い参入予定の新たな担い手が定着できるよう、農地利用の最適化を図る。既存の施設園芸ハウス(トマト)については、引き続き現状の担い手での耕作を行う。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針

米麦や露地野菜等を主体とする担い手への集積を進めるほか、新規就農者等の多様な担い手を受け入れ、農地の利用最適化を図る。農地集積にあたっては中間管理事業を積極的に活用し、担い手への農地集積が円滑に進められる体制を整える。

(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標

現状の集積率	27 %	将来の目標とする集積率	46 %
--------	------	-------------	------

(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標

担い手の経営意向を考慮しつつ、段階的に集約化を進める。

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組
認定農業者、認定新規就農者、集落営農等の担い手を中心に集積を行う。
(2)農地中間管理機構の活用方法
目標地図の実現に向け、中間管理事業を活用し段階的に担い手への集積を行う。
(3)基盤整備事業への取組
保美地区：R4～ 保美土地改良事業(県) 三本木、高山地区：担い手のニーズを踏まえ、必要に応じて基盤整備事業等の実施を検討する。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
新たな担い手確保のため、新規就農者等多様な経営体を積極的に受け入れる。 また、市、県、農協等が一体となり、新規就農者の安定的な農業経営実現のためのサポートを行う。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
担い手のニーズを踏まえ、必要性を検討する。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☒ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組内容】

①市の有害鳥獣被害対策事業を活用し、防護柵等の設置を進めるほか、被害発生時には藤岡市及び猟友会と連携し駆除等の対応を行う。主な被害鳥獣：アライグマ、タヌキ、ハクビシン、シカ、イノシシ
②露地ナスなど野菜栽培では、基肥削減、天敵利用による減農薬を推進する。
③水田農業においては、ドローン利用による小麦赤かび病防除を進める。
④地域内で生産される堆肥を露地野菜栽培に活用している事例がある。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 12 年度)					
		経営作目等	経営面積	作業受託 面積	経営作目等	経営面積	作業受託 面積	目標地図 上の表示	備考	
到達	A	米麦・露地野菜	1.50 ha	ha	米麦・露地野菜	2.10 ha	ha	氏名		
集	B	米麦	10.00 ha	ha	米麦	13.00 ha	ha	氏名		
認農	C	肉用牛(肥育)	0.30 ha	ha	肉用牛(肥育)	0.30 ha	ha	氏名		
認農	D	施設野菜	0.86 ha	ha	施設野菜	1.00 ha	ha	氏名		
利用者	E	ブロッコリー	0.00 ha	ha	ブロッコリー	4.72 ha	ha	氏名		
			ha	ha		ha	ha			
			ha	ha		ha	ha			
			ha	ha		ha	ha			
			ha	ha		ha	ha			
			ha	ha		ha	ha			
			ha	ha		ha	ha			
			ha	ha		ha	ha			
			ha	ha		ha	ha			
			ha	ha		ha	ha			
計	5経営体		12.66 ha	0 ha		21.123 ha	0 ha			

注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。
2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。
3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。
4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。
5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--

注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。

注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。

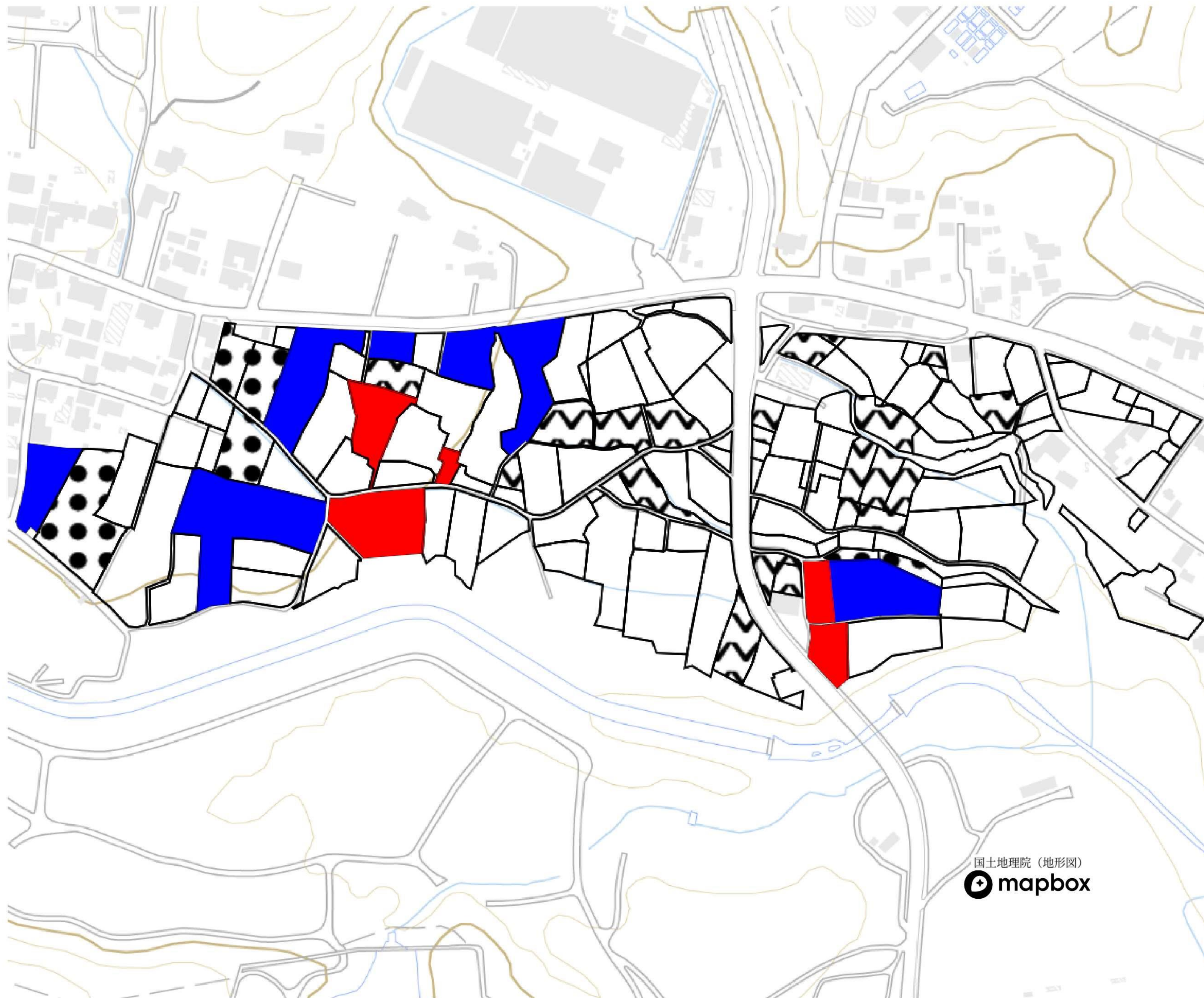
注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報保有に当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。



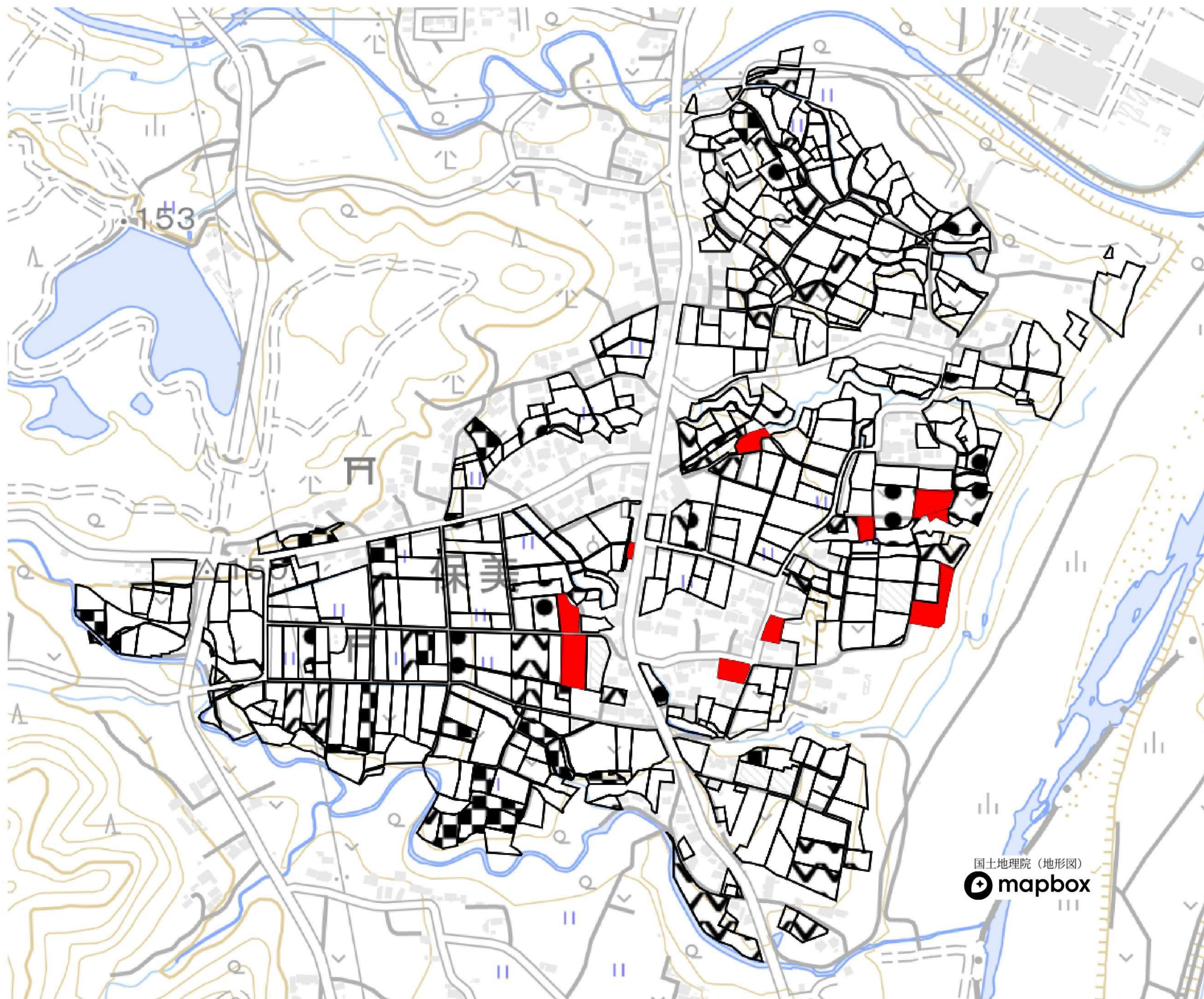
目標地図(素案)



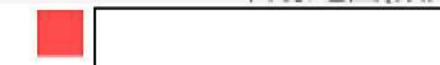
目標地図(現状)

所有者の農地ごとの意向 (印)

- 自ら耕作
- 所有権移転
- ▼ 貸し付け
- ≡ 経営の委託
- ⊕ 農作業の委託
- ／ その他



目標地図(素案)



目標地図(現状)

所有者の農地ごとの意向 (印)

- 自ら耕作
- 所有権移転
- ▽ 貸し付け
- ≡ 経営の委託
- ⊕ 農作業の委託
- ／ その他

保美地区 土地改良实施区域 目标地图

